

# 令和元年（平成31年度）活動計画

## 【Love49アクション】 厚生労働省後援

4月9日（子宮の日） 全国アクション全国47都道府県で街頭予防活動を細胞検査士約1000人で実施  
ニュースレターなど啓発物を配布  
「愛媛新聞」「河北新報」「にいがた経済新聞」「山口新聞」「長崎新聞」への掲載あり

**愛媛新聞 ONLINE** 2019年4月22日(月) 全て 検索 新聞構造

ニュース E4経済 スポーツ 健康・スポーツ エンタメ 特集・連載 LIFE ENJOY 広場 サーブル

トップ 爰媛 国内・海外 社説 地盤 ニュース 選挙 議会中継 写真特集

ホーム > ニュース > 委嘱 委嘱記事一覧

県細胞検査士会など 子宮頸がん早期発見へ定期検診を 松山で街頭啓発

2019年4月15日(月) (愛媛新聞)

Facebook Twitter LINEで送る 文字 小 大

4月9日は「子宮の日」とし、子宮頸(けい)がんの予防を訴える啓発活動が14日、松山市湊町1丁目のまちちゃん広場周辺であります。愛媛県細胞検査士会などが販賣物に訪れた女性にパンフレットを手渡しながら、定期検診の重要性を呼び掛けた。

同様によると、子宮頸がんは性交渉で感染するヒトピローマウイルスの持続感染が原因。若年層の発症が増えているものの、20代の受診率は全体と比べて非常に低く、問題視されている。

1日は、細胞検査士ら約20人が生理用品などを買ったった配布物を約1000セット配り、子宮頸がんについてのアンケートを行つた。受け取った同市特田町2丁目の看護師(45)は「受けた方が

子宮頸がんに関するアンケートに答える通行人

**河北新報 ONLINE NEWS** 广告は Google によります この広告の表示を停止

東北ニュース 全国・海外ニュース スポーツ 防災

トップ 東北ニュース 記事

宮城のニュース

地域 社会

子宮頸がん検診の積極的な受診 細胞検査士ら呼び掛け

子宮頸(けい)がん予防に役立つ検診をPRしようと、宮城県細胞検査士会は6日、仙台市青葉区の藤崎ファーストタワー館前などで積極的な受診を呼び掛けた。

県内の医療機関に勤める細胞検査士ら15人が、子宮頸がんの基礎知識や検診内容を記した冊子を無料で販売して呼び掛けた。

検査士によると、各自治体は検診の無料クーポン券を配布して受診を促しているが、20代の受診率は5%前後と低い。

会長の三浦弘也(ひろしゅ)さん(54)は「20、30代で発症率が高くなりつつある



### 「子宮頸がん」を予防する街頭キャンペーン

2019.04.07

20代、30代の女性に増えている「子宮頸がん」

子宮頸がん予防・啓発アクション「LOVE49(ラブシキウ)プロジェクト」が7日、新潟市西区の「アビス新潟西店」と「寅生会新潟第二病院」で開催された。主催は、新潟県細胞検査士会、新潟県臨床細胞学会。(公社)日本臨床細胞学会。共催は、細胞検査士会。後援は、厚生労働省、新潟県産婦人科医会、新潟県臨床検査技師会、新潟県。

4月9日の「子宮頸がんを予防する日(子宮の日)」を控え、全国各地で予防する街頭キャンペーンが行われ、このプロジェクトもその一環として行われた。がん細胞検査のために病院や検査機関で働く医療従事者が、「認定NPO法人子宮頸がんを考える市民の会」メンバーとして、無料のニュースレター「まもること」や啓発グッズを配布していた。

20代で増え始め、30代でピークを迎える「子宮頸がん」だが、早期に発見できれば簡単な治療で治る病気。厚生労働省でも、20歳から2年に1回の子宮頸がん検診を推奨しているが、日本の子宮頸がん検診率は主要先進国と比較して最下位レベルにとどまっている(日本4.2・1%、アメリカ4.4・5%、韓国5.1・7%、日本医師会ホームページより)。

**THE YAMAGUCHI SHIMBUN 山口新聞** ふるさと創生へ 县民とともに

1名あたり/税抜価格 [5/4] 立山荘 ¥11,944~ 5月4日の空室 最新空室

[4/21] ホテルフジタ福井 撮影料歩7分! 宮庁・繁華街近く… ¥2,685~ 4月21日の空室 最新空室

### 子宮頸がん検診せひ受診して 検査士らが下関で呼び掛け

2019年4月8日(月) 摂取

「子宮の日」(9日)を前に、子宮頸(けい)がん検診の受診を呼び掛けた街頭活動が7日、下関市竹崎町の下関大丸前であった。県内の病院で働く細胞検査士や学生ら約30人が販賣物客に早期発見の重要性を訴えた。

県内の細胞検査士らでつくる県細胞検査士会(岡田宏之会長)の主催。同検査士はがん細胞を発見する専門職で、通り掛かった人にリーフレットやティッシュなどを詰めた啓発グッズ400セットを配り、「ぜひ定期的な検診の受診を」と声を掛けた。



通行人(左)に子宮頸がん検査を受けるよう呼び掛ける県内の細胞検査士ら=7日、下関市

同検査士会などによると、子宮頸がんの発症は20代から増え始め、30代でピークになるが、日本の検診率は約4割で、主要先進国と比較して最下位レベルにあるという。

岡田会長(40)は「子宮頸がんは若い世代の発症が多いが、受診率が低いことが課題。検査は痛みを伴わずにすぐに終わり、定期検診で早期発見できれば早期治療につながる。自分の体を守るとの思いで受診してほしい」と話した。

**長崎新聞**

子宮頸がん啓発 「受診を習慣に」 長崎で キャンペーン

2019/4/10 10:57 ©株式会社長崎新聞社

f t B! e

子宮頸がん啓発 「受診を習慣に」 長崎で キャンペーン

4月9日は「子宮の日」。長崎市で子宮頸がん検診の啓発活動が行われた。長崎市立病院の協力で、市内商業施設で検査士による検査が実施された。

(新聞社WEBサイトより  
記事の一部抜粋)